

大和都市計画道路の変更(生駒市決定)

都市計画道路中3・3・200 号高山南北線を3・4・209 号高山南北線に名称を改め、次のように変更する。

種別	名 称		位 置			区 域	構 造				備考
	番 号	路 線 名	起 点	終 点	主な経過地	延 長	構 造 形 式	車線の数	幅員	地表式の区間における鉄道等との交差の構造	
幹線街路	3・4・209	たかやまなんぼくせん 高山南北線	いごまし 生駒市 たかやまちよう 高山町	いごまし 生駒市 たかやまちよう 高山町		約 3,620m	地表式	2車線	18m (10.5~20m)	幹線街路と平面交差3ヶ所	起点変更 一部路線変更

「区域及び構造は計画図表示のとおり」

理由

別添理由書のとおり

都市計画道路 高山南北線の変更理由書

1. 関西文化学術研究都市「学研高山地区」の概要

関西文化学術研究都市は、京都府・大阪府・奈良県にまたがる京阪奈丘陵において、創造的な学術・研究を行い、新しい産業や文化などの発信拠点となるため、国家プロジェクトとして建設・整備が進められている広域都市である。

学研高山地区第1工区においては、奈良先端科学技術大学院大学が平成3年に開学し、周辺には研究施設や研究開発型産業施設が立地している。

学研高山地区第2工区(288ha)は、人口計画2万3千人の住宅開発を行うものとして、平成12年に土地区画整理事業の都市計画決定、平成14年に都市計画道路の都市計画決定を行ったが、社会経済情勢等により長らく事業化には至っていない。

その後、令和3年6月に策定した生駒市都市計画マスタープランにおいて、学研高山地区を産業・学術研究拠点として位置付け、従来の住機能中心の土地利用から、基礎研究から研究開発、生産に至る各産業施設の立地など、イノベーション創出の基盤となる都市の多様性と機能連携を高める「多機能複合市街地」としての土地利用へ転換する方針とし、以降、工区を分割した段階的な土地区画整理事業によるまちづくりに向け、事業推進しているところである。

2. 路線の概要

(都)高山南北線((都)都市計画道路の略)は、(都)奈良阪南田原線を起点とし、(都)国道163号バイパス線を立体交差し、学研高山地区第2工区の中央を南北に縦貫し、主要地方道枚方大和郡山線を終点とする都市幹線道路として、平成14年8月に都市計画決定されたものである。

3. 都市計画道路変更の内容

(1)変更の理由

学研高山地区第2工区の土地利用を、従来の住機能中心の土地利用から、基礎研究から研究開発、生産に至る各産業施設の立地など、イノベーション創出の基盤となる都市の多様性と機能連携を高める「多機能複合市街地」としての土地利用へ転換することから、既存の(都)国道163号バイパスをオーバーパスし、居住者等の駅への導線を重視した道路計画を、広域道路ネットワークとしての(都)国道163号バイパスへの接続による産業施設立地の誘導を図る道路計画に変更するため。

(2)変更の内容

- ・起点を(都)奈良阪南田原線から(都)国道163号バイパス線に変更
- ・終点は変更せず、学研高山地区の幹線道路として区間延長、車線数、幅員等を変更
- ・(都)高山南北線駅前広場の廃止
- ・幅員変更に伴い路線の名称を「3・3・200号高山南北線」から「3・4・209号高山南北線」に変更